

市内でみられる水生植物

水辺や水中に生息している植物は、魚や虫の産卵場所やかくれ場所として、また水の浄化にも役立っています。ここでは、市内でよくみられる水草などを掲載します。



▶ホザキノフサモ◀

茎は円柱状で、一か所から出る葉の数は4枚。鳥の羽のように枝分かれしている。別名をキンギョモという。



▶エビモ◀

全体的に淡い黄緑色で、葉は波状に縮れ、縁はギザギザ。また、葉の先端はとがらずに丸くなっている。



▶ササバモ◀

葉はササによく似ていて、緑が大きく波打っている。葉の先端は急に細くなり鋭くかっている。



▶アイノコイトモ◀

細長い茎と葉を持ち、流水にたなびくように生えている。茎はよく枝分かれし、葉の幅は約2mm。



▶アマモ◀

海藻ではなく種子植物の仲間。海底が砂や泥のところにも生える。初夏には花を咲かせる。アマモ場は魚、貝、エビ・カニなどのすみかとなる。かわさきの海にアマモが自生していることを確認。東扇島東公園人工海浜にて(右写真)。

市内で確認された外来生物

サンフィッシュ科



★特定外来生物 ブラックバス

親が卵と稚魚を保護し、繁殖力が非常に強い。ため、移入した場所の生態系に大きな影響を与えることが危惧されている。オオクチバスの俗称。

サンフィッシュ科



★特定外来生物 ブルーギル

体はだ円形で体高が高く左右に平たくて表面はざらざらしている。体全体に濃い青灰色の横縞がある。日本には1960年に持ち込まれた。

アメリカザリガニ科



★条件付特定外来生物 アメリカザリガニ

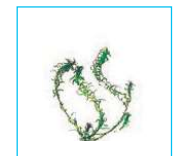
体は暗褐色で、第1〜3脚にハサミをもつ。第1脚は特に強大で多くのトゲがある。1930年にウシガエルのえさとして、アメリカから移植された。

ヌマガメ科



★条件付特定外来生物 ミシシippアカミミガメ

頭の後ろに赤い筋があるのが特徴。幼体の甲羅は緑色に黄色い模様が見られる。ミドリガメと呼ばれることもある。



▶コカナダモ◀

茎は枝分かれが多く、あまり長くない。一か所から出る葉の数は、普通3枚。



▶オオカナダモ◀

茎は太く、円筒形で長く、柔軟。一か所から出る葉の数は、普通4枚。



▶オランダガラシ◀

葉は丸みをおびていて、5月頃に茎の先に白く小さい花を咲かせる。別名をクレンソウという。



▶オオフサモ◀

茎の節から羽のような葉が輪状に生えている。遠くから見ると葉のかたまりが「ふさ」のように見える。

コラム 外来生物とは？

外来生物はもともとはその地域にいなかった生きものが、人間の活動によって他の地域から入ってきた種をいいます。川崎市内でもアメリカザリガニやミシシippアカミミガメ、ブラックバスやブルーギルなどの外来生物が確認されています。

たいていの外来生物はやってきた地域の自然になじみませんが、中には地域の自然にうまく入りこみ、数をたくさん増やして、問題を引き起こすことがあります。外来生物による影響をなくすため、外来生物を「入れない」、「捨てない」、「拡げない」とする外来種被害予防三原則を守りましょう。

アメリカザリガニとミシシippアカミミガメは2023年6月に条件付特定外来生物に指定されました。飼うことはできますが、野外に放したり、逃がしたりすることは法律で禁止されています。ペットとして飼育している方は、最後まで責任をもって飼育しましょう。

市内でみられる希少な生きもの

都市化が進む川崎市でも、自然がまだ残された地域があり、今後生息が危ぶまれるような水生動植物がみられます。その中には絶滅のおそれのある野生生物も含まれています。

環境省レッドリスト

★絶滅危惧種



★準絶滅危惧種



神奈川県レッドリスト

★県内絶滅危惧種



★県内準絶滅危惧種



準絶滅危惧種とは現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種